



CASA連続市民講座

第15期 地球環境大学

脱！温暖化生活

第2回講座 食べ物編「食卓から考える温暖化対策」

とき：2007年6月23日（土）

場所：大阪産業創造館

開講の辞に続いて、あおぞら財団の林美帆さんの指導でフードマイレージゲーム。フードマイレージとは食品の重さ（トン）に輸送距離（km）を掛けた値で示される。つまり距離が遠いほどフードマイレージは大きくなる。さらに輸送手段の二酸化炭素排出係数を掛けると二酸化炭素の排出量が求められる。

ゲームでは参加者が4つのチームに分れ、それぞれ大家族と見立てて夕食の献立を考える。各チームのテーブル上には食材の写真カードに価格と産地が書き添えられて並べられており、予算内で食材を選んで献立を作る。1970年の設定で、旬を外したものは買えないとか、車で買い物に行けないとかの条件が付いている2チームと、2004年の設定で、旬でない食材も買えるし、車も使える2チームに分かれてゲームをした。

各チーム工夫をこらしたメニューを作り、採点は使った食材ごとの二酸化炭素排出量をポイントで表して合計値が低いのを競う。1970年チームは13ポイント、15ポイントで、「1970年だとだいたい10ポイント台になります」と林さん。一方2004年で11ポイントのチームがあって、「現代でも考えて選ぶとこんなに低くできます」と林さん。しかしそのチームは車でショッピングセンターに行っていたため一挙に105ポイント加算になって最上位から最下位に落ちるドンデン返しがあった。2004年のもう1つのチームは30～40ポイント台であった。



フードマイレージゲーム中

続いて今のゲームを基にして林さんの講義「買い物から環境と交通を考える」。各国のフードマイレージ比較で日本はダントツで世界一であることが示されている（図1）。この背景には、1960年79%、1970年60%、2005年40%と低下してきた食料自給率、その一方で高速道路網（トラック輸送手段）の充実があるという。輸送・移動の手段についても、乗用車、飛行機、バス、鉄道の順で二酸化炭素排出量が多く、乗用車と鉄道では9倍の差があり、移動することも単にお金を払って移動するだけでなく、環境等への影響を踏まえた自分の生活の選択であると指摘された。

同じように買い物をするこも、単にお金を払って商品を買うだけでなく、自分の生活の選択であり、消費＝消費者による経済的投票、交通＝移動者による社会的投票とみることができ

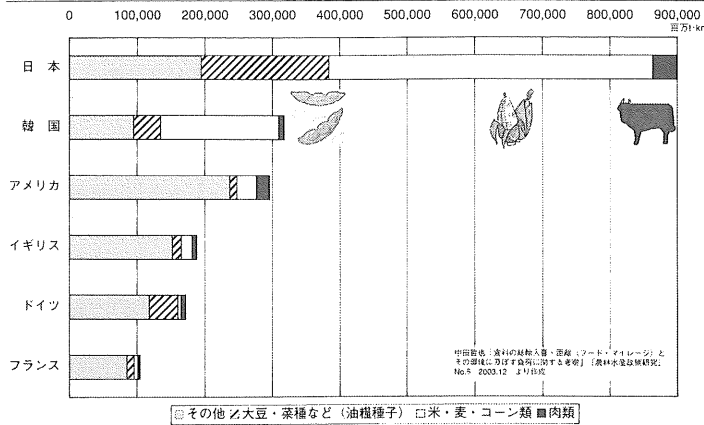


図1. 各国のフードマイレージ比較

やボトルによる環境負荷がとても大きいとのことだった。休憩の後はグループディスカッション。今度は各チームを市に見立てて市長になったつもりで政策提言をするというテーマである。予め「A/農地の確保・整備」、「B/農業の担い手育成」から「I/コンパクトシティへ都市構造を改変」に至る9項目の提言が示されていてそれを重要な順に並べるのであるが、その統一見解をチーム内でディス

カッションして発表するのである。

カッションして発表するのである。

るので、消費も交通も社会的行為であると締め括られた。
次いでCASAの三澤友子さんの報告「食卓から考える温暖化対策」。グリーンコンシューマ(環境を大切にして買い物をする消費者)になろうというのがメインテーマであった。食料輸送のための環境負荷を減らそうとすると、食料自給率の向上や輸送手段の選定も必要だし、究極は生産地で消費する「地産地消」となる。例としてJA大阪泉州農産物直売所が紹介されていた。

「さしずめ市議会ですね」と言っていたら私がD市の市議会議長に指名されてしまった。それで東大阪市あたりにある人口10万人規模の市を想定して、議事開始。政策提言のA, Bを最重要と考える議員とIが最重要と考える議員とに大きく分かれた。議長としては制限時間内にまとめなければならないので、やや多数であったBを最重要にして、その次にAを置き、Iは中ほどの重要度という結論にしたが、時間があればもっと聞きたいという発言が多く寄せられ、途中で打ち切らせて頂くのが申し訳ない気持ちであった。

ハウス栽培の普及により旬でない食材も入手できるようになったが、ハウス栽培ものは露地物の4倍のエネルギーを必要とする。従って旬の食材を選ぶことも大切である。

制限時間がきて各市の政策発表となったが、どの市もA, Bを最重要とする意見とIを最重要とする意見との調整には悩まされたとみえて、まとめきれずに両論併記とした市や発表者の見解と断って述べた市もあった。これは正解のあるテーマではなく政策をまとめていくプロセスの一端を体験してもらえばよいとのことであった。

2002年度の日本の食品産業全体からの廃棄食品量は約1130万トンあって、世界の食料援助の総量に匹敵するというほどの、世界最大の残飯大国であるというのも驚きだが、一般家庭から出る廃棄はそれより多い1200万トンと聞くとさらなる驚きであった。

ゲームやディスカッションも熱中できたし、講義も上手くて集中でき、あっという間の3時間であった。時間がこんなに短く感じたのは久しぶりのことである。

「食事に欠かせない水の問題」の話もあった。水道水への不安からボトルウォーターの需要が急増しているが、厳しい規格基準の水道水に比べ、嗜好品の扱いになっているボトルウォーターは必ずしも安全と言えないうえ、自動販売機

(報告: 山田直樹CASAレター編集員)

次回以降の講座も日常生活に密着した身近でわかりやすいテーマで進めていく予定です。

さらに参加者同士の情報交換の場にもなればと思っていますのでぜひご参加ください。
